



自分の力を信じて 道は必ず開ける つがる市成人式



司会を務めた山口颯さん



新成人代表を務めた木村さん

12月26日、令和3年度つがる市成人式が松の館で開催されました。例年本市では8月に成人式を開催してきましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により12月に延期しての開催となりました。式には対象者293人のうち175人が出席。ふるさとへの愛着と誇りを胸に、大人としての第一歩を踏み出しました。

倉光市長は「失敗を恐れず若い時だからこそできる新しいこと、やりたいことに積極的にチャレンジしてほしい。自身のかけがえない財産になる」と新成人にエールを送りました。

新成人を代表して木村太陽さんが「故郷を大切に、つがる市の成人として確固たる自覚を持ち未来に向かって歩むことを誓う」と述べました。

新成人の抱負



古坂和奏さん

ここまで育ててくれた親に感謝したい。立派な大人になって親孝行したい。

鎌田大夢さん

より一層、大人としての自覚をもって日々励んでいきたい。将来は、幸せな家庭を築きたい。



おうちの方もスマホで振り袖姿をパシャリ

上原げんと杯 のど自慢大会 チャンピオン決定!

上原げんと杯実行委員会(川嶋大史会長)が「第43回上原げんと杯争奪のど自慢大会」を柏ふるさと交流センターで開催。12月5日に行われた予選には県内外から67人が参加。その予選を勝ち抜いた30人による準決勝・決勝を12月19日に行いました。今年は決勝の上位3人による優勝決定戦も行われ、聴衆約500人は力が入った歌に聴き入りました。



今回で最後と決めて挑み
優勝を勝ち取った成田さん

見事優勝に輝いたのは、「未練のなみだ」を歌った成田千恵子さん(五所川原市)。17回目の出場にして悲願を達成しました。成田さんは「一生懸命歌うことだけを考えて。優勝できると思わなかった」と感無量。「歌った曲は病気を患った友人の持ち歌。それを譲ってもらった。だから『友人の分もがんばらないと』という思いがあった」「予選を通過してからは毎日2時間カラオケで練習した」とげんと杯にかける強い思いを語ってくれました。



惜しくも2位となったが
華やかな歌声を披露した三津谷さん



迫力ある歌声を披露した
3位の小原さん



決勝戦に臨んだ10人。結果は下記のとおり。(敬称略)

特別審査員は、「じょんから女節」(長山洋子)などを作曲した作曲家・歌手の西つよしさん。決勝では歌い終えた一人一人を講評しました。少し辛口の評価ではありましたが、息継ぎの仕方や「しゃくり」のコツなどを丁寧にアドバイス。曲の最初から最後までを通して聴きやすい歌だったかどうかを審査の基準にしたと話していました。



上原げんとプロフィール

本名は上原治佐衛門。1914年(大正3年)12月28日、旧木造町に生まれる。実家は蓄音機店。昭和11年から演歌師などをしながら全国を放浪。昭和14年歌手の岡晴夫と組み「国境の春」でレコードデビュー。その後黄金期を支える作曲家として、「東京の花売娘」、「港町十三番地」など数々の曲をヒットさせる。昭和40年心筋梗塞を発症し50歳で急死。

順位	氏名	住所	決勝曲(歌手名)
優勝	成田千恵子	五所川原市	未練のなみだ(服部浩子)
2位	三津谷有華	平内町	花になれ ~うめさくらあやめあじさい ひがなばな~(田川寿美)
3位	小原 篤治	七戸町	イヨマンテの夜(細川たかし)
4位	佐藤 敬子	六戸町	愛の讃歌(越路吹雪)
5位	小笠原さだ子	弘前市	ホームで(香西かおり)
6位	逢坂このゆ	平内町	山河(五木ひろし)
7位	須々田憲一	平川市	星になるまで(湯原昌幸)
8位	境 篤子	弘前市	瞽女の恋唄(金田たつえ)
9位	千葉 齊	黒石市	鶴の舞橋(成世昌平)
10位	佐藤 恵子	札幌市	飢餓海峡(石川さゆり)